

新刊紹介

聖アウグスチヌスの研究 征矢野昇雄著

著者は基督教の熱心な信者であり、東大文學部で哲學を専攻して、大正四年に卒業した後、數年間は近代哲學を専攻して居られたが、その後約十年間専心にアウグスチヌスの研究に心身を捧げた篤學者であるが、不幸短命で早世された。そのアウグスチヌス研究は遺憾ながら組織的述作として遺されなかつたが、特殊な問題に就て論述された三四のアルバイトを集めて公表されたのが本書である。

基督教の歴史及び神學に關して、邦文で書かれた文獻中には、永久の價値を有するものは少いやうである。偉大な教父アウグスチヌスに就ても同様である。征矢野氏のこの著述は確かに基督教史學上に於ける意味の深い著述であらうと思はれる。目次の大要。

第一 聖アウグスチヌスの宗教哲學

第二 聖アウグスチヌスの恩寵論

第三 神の存在の眞理性

第四 雜篇

(長崎書店發行、菊版、貳圓五拾錢)

哲學名著叢書

理想社出版部出版

一一〇

廣義の哲學に關する永久的價値を持つ權威的名著を、古典に偏せず、現代のものに偏せず、廣く執つて、譯出し、逐次刊行せんとする叢書である。凡ての學術に於てさうであらうが、殊に哲學では、大家の學說を研究するのに、その紹介や註疏風の書籍を讀むことも有益な事ではあるが、進んでは大家の著作そのものを味讀して、直接に著者の思想の核心に觸れることが一層有益な事である。その意味に於て、この叢書の刊行は我が哲學界に寄與する所が多いであらう。願はくばこの事業を永續して重要な典籍をこの叢書だけに一通り網羅されるやうになれば極めて結構なことと思ふ。なほ今まで刊行されたのは次の八書であるが、それらは比較的の内容が少量なものが多い。將來は可なり内容の大部なものをも加へられんことを切望する。

ロツツエ 形而上學綱要

山本 泰教譯 定價壹圓貳拾錢

ハルトマン 觀念論と實在論との彼岸

佐藤 慶二譯 定價壹圓貳拾錢

テイチエナー 心理學概論

岡島龜次郎譯 定價貳圓八拾錢